1. 《高原》 1952年　中央大学蔵

堀文子

Hori Fumiko Retrospective: Unending Journey

【一所不住・旅】展

ただ一度の一生を美にひれ伏す

2015. 4/18㊏–6/7㊐

第1章　旅のはじまり（1936-1960）
第2章　ヨーロッパ、メキシコ（1961-1966）
第3章　大磯（1967-1978）
第4章　軽井沢（1979-1986）
第5章　トスカーナ（1987-1992）
第6章　心の赴くままに－
　　アマゾン、メキシコ、ペルー、ヒマラヤ、ネパール（1995-）
第7章　眼の歓び－愛しきものたち（2000-）
第8章　さまざまな仕事－絵本原画、挿絵、スケッチなど

ただ一度の一生を美にひれ伏す
画業八十年。堀文子の挑戦は終わらない。

堀 文子　一所不住・旅　展

Hori Fumiko Retrospective : Unending Journey

展覧会概要

今なお新しい創作に打ち込み続ける日本画家・堀文子（1918（大正7）年東京生まれ）の展覧会を開催します。

女性も自立すべきだという母親の影響で自由を求めた堀文子は、父親の反対を押し切り、1936（昭和11）年、女子美術専門学校（現／女子美術大学）日本画部に入学。在学中の1939（昭和14）年、新美術人協会展に《原始祭》を出品、初入選を果たし、同会に入ります。その後も、創造美術から創画会に続く革新的なグループの中で、新しい日本画の道を探り、受賞を重ねました。美術に自由を求めた堀は、官展からは距離を置き、権威に反発する姿勢を貫いたため、近現代の美術史の流れに位置づけられることはあまりありませんでしたが、その生き方や言葉は、作品の魅力とともに、多くの女性たちの憧れを集めています。

作家の画業において、変わらないのは自然へのまなざしです。ごく初期の作品から、自然への畏敬、生命の不思議への感動が、従来の日本画にはない独自の表現方法で描きこまれています。自然の形象を抽象的に構成して描いた作品や、初めて西洋を旅して最後に訪れたメキシコをテーマに新しい技法を駆使したシリーズなど、堀は次々と新しい挑戦をつづけました。1967（昭和42）年、都会を離れて生きることを決意して神奈川県大磯に転居すると、画風は一変し、日本の四季や風景を澄んだ色調で描きます。さらなる自然を求めて軽井沢やイタリアのアレッツォ郊外にアトリエを構え、それぞれの土地で体感した自然を表情豊かに描きだしました。2001（平成13）年に病に倒れた堀文子は奇跡的に回復し、その後微生物や身近な昆虫といった新しい画題、切り絵や貼り絵など新しい技法を試み、未知なる感動へと前進を続けています。

本展は、堀自身の言葉「一所不住・旅」をテーマとし、飽くなき好奇心と探求心で歩んできた足跡に沿いながら、画家の80年に及ぶ画業を回顧します。初期の作品から最新作までおよそ130点を展示し、堀文子の芸術そして、人間像に迫ります。

2.《牡丹》 1988年　個人蔵

会期等

2015年4月18日（土）～6月7日（日）
休館日：月曜日
※ただし5月4日（月・祝）開館、5月7日（木）休館
開館時間：午前10時～午後6時
※金・土曜日は夜間開館（午後8時まで）
※入場は閉館の30分前まで

会場：兵庫県立美術館　企画展示室
主催：兵庫県立美術館、朝日新聞社
後援：兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会
協賛：日本写真印刷
開催協力：ナカジマアート

観覧料

一般1,300（1,100）円、大学生900（700）円、
高校生・65歳以上650（550）円、中学生以下無料
※（　）内は、前売および20名以上の団体割引料金
（高校生・65歳以上は前売なし）
※障がいのある方とその介護の方1名は各当日料金の半額
（65歳以上を除く）
※割引を受けられる方は、証明できるものを持参のうえ、会期中に美術館窓口で入場券をお買い求めください。
※県美プレミアム展の観覧には別途観覧料金が必要です。
（本展とあわせて観覧される場合は割引あり）
※前売券の販売は2月18日（水）から4月17日（金）まで。
※主なチケット販売場所：チケットぴあ（Pコード：766-635）、ローソン（Lコード：54978）、ファミリーマート、セブンイレブン、サークルK・サンクス、イープラス、CNプレイガイドほか。
※講演セット券（一般2,000円のみ）はチケットぴあ（Pコード：763-201）、ローソン（Lコード：54982）、セブンイレブンのみ取扱い。2月18日（水）から限定数230枚が売り切れるまで販売。
※詳しい情報は当館ホームページをご覧ください。

展覧会構成

第1章　旅のはじまり（1936-1960）

女子美術専門学校に入学し、本格的に絵に取り組み始めた最初期から、当時の先鋭的な日本画の動向を受容しながら、身近な動植物や風景を対象に独自の世界を築いていく時期の作品を紹介します。

4. 《山の思い出》 1955年　第19回新制作展　個人蔵

3. 《月と猫》 1950年頃　個人蔵

5. 《霧の野》 1960年　第24回新制作展
東京国立近代美術館蔵

第2章　ヨーロッパ、メキシコ（1961-1966）

1961年に初めてヨーロッパに渡った堀は、西洋の風土や歴史を見聞する中で、自らの原点が日本の風土にあることを実感します。メキシコでは素朴な生活や風土に共感しつつも自己の立ち位置を確信、従来の日本画にはない表現を模索し独創的な作品が描かれました。

6. 《仮面と老婆》 1966年　第30回新制作展　個人蔵

第3章　大磯（1967-1978）

ものを創る人間は都市に住んではいけない－と感じた堀は、絵画制作に真摯に向き合うべく大磯移住を決意します。周囲の豊かな自然や、親密で身近な対象を、豊かな色彩と力強い造形で描き出しました。

7. 《夏》 1967年　兵庫県立川西緑台高等学校蔵

第4章　軽井沢（1979-1986）

1979年軽井沢にアトリエを持ち、大磯と往き来する生活を始めた堀は、浅間山を正面から見渡せるアトリエで、雄大な自然を対象とした風景画の大作を発表しました。70年代から80年代にかけては日本の移ろいゆく四季の表情を端正で繊細な筆致で描写した、風景画の名作が数多く生まれています。

8. 《冬野の詩》 1988年　第15回創画展　個人蔵

第5章　トスカーナ（1987-1992）

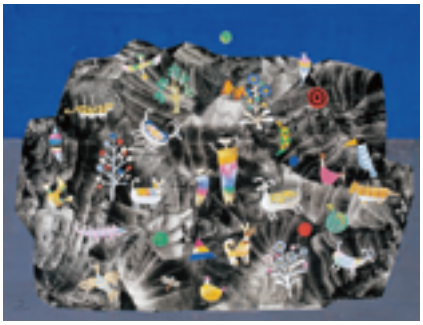
日本での「浮き足だったバブル景気に嫌気がさし」て、堀は単身イタリア、トスカーナ地方の都市アレッツォ郊外にアトリエを構えることを決意します。画家68歳の年でした。イタリアでの制作は堀の絵画表現の可能性を更に拡げることとなります。イタリアの風物を色鮮やかに描いた一連の作品からは、何にもとらわれない、画家の自由な精神を見てとることができます。

9. 《トスカーナの花野》 1990年　個人蔵

第6章　心の赴くままに－
アマゾン、メキシコ、ペルー、ヒマラヤ、ネパール（1995-）

1992年、イタリアのアトリエを引き払った堀は、新たな出会いを求め、旅を重ねます。アマゾンの熱帯雨林、メキシコのタスコやマヤ遺跡、ヒマラヤ、ペルーのインカ遺跡などを旅し、旅先での発見や驚きを作品に残しています。

10. 《葉きり蟻の行進》 2001年　個人蔵



11. 《ユートピア》 2001年　個人蔵

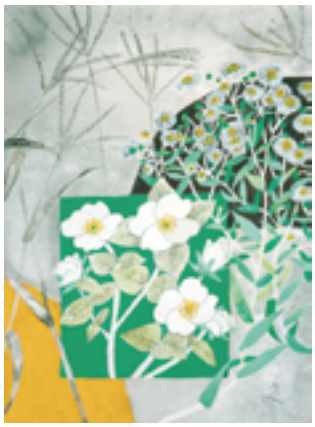
12. 《幻の花　ブルーポピー》 2001年
個人蔵

13. 《アフガンの王女》 2003年
個人蔵

第７章　眼の歓び－愛しきものたち（2000-）

堀文子の探求心と好奇心はとどまるところを知りません。広大な風景からミジンコなどの極小な生き物まで、堀はあらゆる対象に意欲的に挑み、独創的な世界を築いています。一つの場所、表現、対象に安住しない孤高の旅人として、堀は新たな世界を求め、歩み続けています。

14. 《幼生達の集い》 2008年　個人蔵



15. 《白山吹と雑草》 2014年　個人蔵

第８章　さまざまな仕事－
絵本原画、挿絵、スケッチなど

1950年代から70年代にかけて、堀文子は絵本をはじめ童話の挿絵などを精力的に手がけました。そこには絵本や児童書を通じて、子どもたちに最高のもの、立派なものに触れてほしいという思いが込められており、やさしい色遣いで描かれた詩情あふれる世界が繰り広げられています。絵本『くるみわりにんぎょう』は1972（昭和47）年、第9回イタリア・ボローニャ国際絵本原画展でグラフィック賞を受賞しました。堀文子はまた、女子美術専門学校卒業後、東京帝国大学農学部作物学研究室で約２年間記録係を務めましたが、微細に植物を観察しそれらを緻密にスケッチするという経験は、その後の制作におけるひとつの礎となったと思われます。本章では、絵本や挿絵の仕事、スケッチ等を展示し、画家堀文子のもうひとつの世界に迫ります。

16. 《ピップとちょうちょう》（「こどものとも」1号）　1956年
宮城県美術館蔵

関連行事

記念講演会「極上の流転　堀文子への旅」

講師：村松友視氏（作家。1940年東京生まれ。82年『時代屋の女房』で直木賞、97年『鎌倉のおばさん』で泉鏡花文学賞を受賞。2013年に、堀文子の評伝『極上の流転　堀文子への旅』を発表する。）

4月26日（日）　午後2時～（約90分）

ミュージアムホールにて　（定員230名）

※聴講には、堀文子展の観覧とセットになった講演セット券（一般2,000円のみ）が必要。2月18日（水）からチケットぴあ（Pコード：763-201）、ローソン（Lコード：54982）、セブンイレブンで販売。限定数230。

協力：兵庫県立美術館芸術の館友の会

学芸員による解説会

4月25日（土）、5月9日（土）、5月23日（土）、6月6日（土）

午後4時～（約45分）

レクチャールームにて　聴講無料（定員100名）

ミュージアム・ボランティアによる解説会

会期中毎週日曜日　午前11時～（約15分）

レクチャールームにて　聴講無料（定員100名）

おやこ解説会

5月2日（土）　午後1時30分～（約30分）

レクチャールームにて　聴講無料（定員100名）

こどものイベント

5月23日（土）　午前10時30分～午後3時30分

アトリエ2にて　要参加費（定員30名）

お問い合わせ・お申込み：こどものイベント係　TEL 078-262-0908

※詳しい情報は当館ホームページをご覧ください。

2013年撮影

堀 文子　略歴

1918（大正7）年	東京都麹町区平河町に生まれる
1923（大正12）年	自宅で関東大震災を体験
1936（昭和11）年	自宅近辺で起こった2.26事件を間近に体験する 女子美術専門学校（現・女子美術大学）の師範科日本画部に入学
1939（昭和14）年	先鋭的な日本画団体である新美術人協会展（第2回）に初入選
1948（昭和23）年	第1回創造美術展に入選、奨励賞を受賞 以後、創造美術につづく団体である新制作協会、創画会で作品を発表
1952（昭和27）年	第2回上村松園賞を受賞 1950年代には絵本、童話の挿絵制作も精力的に行う
1961（昭和36）年	初めて海外を旅行、1964年にかけてエジプト、ヨーロッパ、アメリカ、メキシコ等を廻る
1967（昭和42）年	大磯に転居
1979（昭和54）年	軽井沢にアトリエを構える
1987（昭和62）年	イタリア、トスカーナ地方のアレッツォ郊外にアトリエを構える（1992年まで）
1995（平成7）年	アマゾンの熱帯雨林、メキシコのタスコ、マヤ遺跡を訪れる
1997（平成9）年	ネパールを旅行
1998（平成10）年	ヒマラヤ、ペルーを旅行 ヒマラヤへは翌99年、2000年にも訪れる
1999（平成11）年	創画会を退会
2001（平成13）年	解離性動脈瘤でたおれたが回復する
2004（平成16）年	雑誌『サライ』に「命といふもの」の連載を始める
2014（平成26）年	福島空港旅客ターミナルビルに同名の作品（2001年）を原画とした陶板レリーフ「ユートピア」が完成

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

お問い合わせ先

兵庫県立美術館

〒651-0073　神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

代表　TEL: 078-262-0901　FAX: 078-262-0903

http://www.artm.pref.hyogo.jp

企画内容に関すること

担当学芸員: 飯尾由貴子　iio@artm.pref.hyogo.jp

鈴木慈子　suzuki@artm.pref.hyogo.jp

TEL: 078-262-0909　FAX: 078-262-0913

取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ

TEL: 078-262-0905　FAX: 078-262-0903

同時開催の展覧会

県美プレミアム

「IN MY ROOM / ON THE ROAD ―私の部屋、あるいは、路上にて―」

3月21日（土・祝）～7月5日（日）

会場：兵庫県立美術館　常設展示室

ガウディ × 井上雄彦　―シンクロする創造の源泉―

3月21日（土・祝）～5月24日（日）

会場：兵庫県立美術館　ギャラリー棟3階

横尾忠則現代美術館での同時開催

横尾忠則展　カット＆ペースト　～切った貼ったの大立ち回り。

4月18日（土）～7月20日（月・祝）

※特別展又は、県美プレミアムのチケット（半券可）のご提示で、団体割引料金でご覧いただけます。
（詳細はホームページなどでご確認ください）

交通案内

阪神岩屋駅（兵庫県立美術館前）から南に徒歩約8分

JR神戸線灘駅南口から南に徒歩約10分

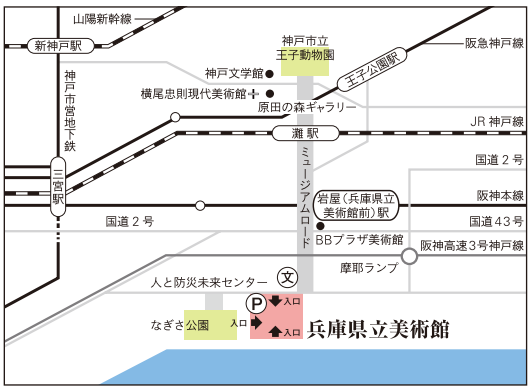
阪急神戸線王子公園駅西口から南西に徒歩約20分

ＪＲ三ノ宮駅南から神戸市バス（29・101系統）・阪神バスにて約15分　HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ

地下駐車場: 乗用車80台収容・有料

＊ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください

＊団体バスでお越しの場合は、バス待機所の予約をお願いします



兵庫県立美術館

堀 文子　一所不住･旅　展

2015年4月18日(土)～6月7日(日)

広報画像申込書

営業・広報グループ　宛　ＦＡＸ（０７８）２６２－０９０３

〒651-0073　神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1　電話（078）262－0905（直通）

ご希望の画像の番号に〇をつけてください。後日データ（.jpg）をお送りいたします。

番号	作品名・制作年・所蔵 など
1	《高原》　1952年　中央大学蔵
2	《牡丹》　1988年　個人蔵
3	《月と猫》　1950年頃　個人蔵
4	《山の思い出》　1955年　第19回新制作展　個人蔵
5	《霧の野》　1960年　第24回新制作展　東京国立近代美術館蔵
6	《仮面と老婆》　1966年　第30回新制作展　個人蔵
7	《夏》　1967年　兵庫県立川西緑台高等学校蔵
8	《冬野の詩》　1988年　第15回創画展　個人蔵
9	《トスカーナの花野》　1990年　個人蔵
10	《葉きり蟻の行進》　2001年　個人蔵
11	《ユートピア》　2001年　個人蔵
12	《幻の花　ブルーポピー》　2001年　個人蔵
13	《アフガンの王女》　2003年　個人蔵
14	《幼生達の集い》　2008年　個人蔵
15	《白山吹と雑草》　2014年　個人蔵
16	《ビップとちょうちょう》(「こどものとも」1号)　1956年　宮城県美術館蔵

※上記画像を媒体掲載されるときには、記載の**作品名・制作年・所蔵**などを必ず入れてください。
※作品画像は**全図で使用**してください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・改変はできません。
※画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません。(会期終了まで)
※再放送、転載など二次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。
※Webサイトに掲載する場合は必ずコピーガードを施してください。
※基本情報、図版使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で営業・広報グループまでお送り願います。

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ TV・ラジオ・インターネット　『　　』		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		ＦＡＸ	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日		画像到着希望日	
読者・視聴者プレゼント用招待券（最大5組10名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限ります）	組　　名分希望		

※本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体（VTR/DVD）、URLなどを、上記営業・広報宛にお送り願います。
※展覧会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材･撮影はお断りいたします。